

CSNニュース 3月号

(社)地域社会支援ネットワーク神奈川

CSNは自治会・町内会様と連携し、併せて民生委員・児童委員、地域包括支援センター、地域ボランティアグループとも連携して地域の独居者やご高齢者への見守り電話(無料)や生活支援を行っています。
「どこに頼んだらよいだろう?」と思ったときに CSN に“ご相談”下されば、「作業の方法」をご提案し、利用者様の立場で地域の信頼できる業者への「お手配」を行っています。また、地域の皆様むけに共同発注を企画して、より良い「サービス」「商品」を選択し、地域限定の特別価格にてご提供しております。

2月号に続き、「平成26年度版高齢社会白書」から抜粋して「高齢者の健康状態」からご案内します。

- 高齢者の健康状態では、平成22年における有訴者率（人口1,000人当たりの「ここ数日、病気やけが等で自覚症状のある者（入院者を除く）」の数）は471.1と半数近くの方が何らかの自覚症状を訴えている。しかしその一方、日常生活（食事・入浴・外出・仕事・運動等）に影響のある者の率は209.0と、有訴者率と比べると半分以下になっている。これを年齢階級別、男女別にみると、年齢層が高いほど上昇し、また、70歳代後半以降の年齢層において女性が男性を上回っている。高齢になるにしたがって、健康状態が「よい」、「まあよい」とする人の割合が下がる傾向にある。
- 平均寿命は、平成25年時点で男性が80.21年、女性が86.61年となり、徐々に伸びている。（最新データ）
- 日常生活に制限のない期間（健康寿命）は、平成24年時点で男性が71.19年、女性が74.21年（最新データ）となっており、それぞれ平成13年と比べて延びている。（平成13年時点で男性69.40年、女性が72.65年）
- 高齢者の死因となった疾病をみると、死亡率（高齢者人口10万人当たりの死亡数）は、平成24(2012)年において、「悪性新生物（がん）」が958.4と最も高く、次いで「心疾患」584.3、「肺炎」391.1の順になっており、これら3つの疾病で高齢者の死因の半分以上を占めている。
- 65歳以上の要介護者等認定者数は平成24(2012)年度末で545.7万人であり、平成13(2001)年度末から258.0万人増加している。75歳以上で要介護の認定を受けた人は、75歳以上の被保険者のうち23.0%を占める。

年齢区分	65～74歳		75歳以上	
要介護者内訳	要支援213千人（1.4%）	要介護473千人（3.0%）	要支援1,282千（8.4%）	要介護3,489千人（23.0%）

- 介護が必要になった場合の費用負担に関する意識について、内閣府の調査で60歳以上の人に尋ねたところ、「特に用意しなくても年金等の収入でまかなうことができると思う」が43.2%、「貯蓄だけでは足りないが、自宅などの不動産を担保にお金を借りてまかなうことになると思う」が7.7%、「資産の売却等でまかなうことになると思う」が7.4%、「子供からの経済的な支援を受けることになると思う」が9.9%、「その場合に必要だけの貯蓄は用意していると思う」が20.3%となっている。

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
A				B	C	D	E		F	
A	特に用意しなくても年金等の収入でまかなうことができると思う					D	子供からの経済的な援助を受けることになると思う			
B	貯蓄だけでは足りないが、自宅などの不動産を担保にお金を借りてまかなうことになると思う					E	その場合に必要だけの貯蓄は用意していると思う			
C	資産の売却等でまかなうことになると思う					F	その他、わからない			

- 「日常生活を送るうえで介護が必要になった場合に、どこで介護を受けたいか?」については、男女とも「自宅で介護してほしい」が最も多いが、男性は42.2%、女性は30.2%と、男性のほうが自宅での介護を希望する割合が高くなっている。自宅以外では「介護老人福祉施設に入所したい」（男性18.3%、女性19.1%）、「病院などの医療機関に入院したい」（男性16.7%、女性23.1%）、「介護老人保健施設を利用したい」（男性11.3%、女性11.2%）が多い。

※次号では「高齢者の社会参加活動」や「高齢者の生活環境/住居」などをご案内いたします。

2月号は当団体ホームページをご覧ください。 <http://cs-network.or.jp>